

政務活動費行政視察報告書

視察期日 平成30年10月11日～平成30年10月12日

視察地及び項目

第80回全国都市問題会議

視察参加者 志木市議会議員 鈴木 潔

視察内容 別紙のとおり

平成30年11月5日

志木市議会議長 河野 芳徳 様

報告者 志木市議会議員 鈴木 潔



別 紙

第80回都市問題会議

市民協働による公共の拠点づくり

(視察内容)

開会式

開 会 挨 拶	全国市長会会長	立谷秀清	相馬市長
開催市市長挨拶		磯田竜伸	新潟県長岡市長
来 賓 祝 辞		花角英世	新潟県知事

ご挨拶のあと

基調講演

地方分権へのまなざしと題して

東京大学史料編纂所教授 本郷和人氏の基調講演がありました。

主報告

磯田達伸長岡市長による「長岡市の市民協働」と題した主報告がされました。

一般報告

三重県津市長 前葉康幸氏が「市民との対話と連携で進める津市の公共施設マネジメント」と題して、建築家・東京大学教授 熊研吾氏の「場所の時代」と題して、筑波大学客員教授が「アオーレ長岡の発注者として」と題し、アートディレクター森本千絵氏の「アオーレ長岡での市民協働の実践」と題しそれぞれ報告がなされました。

パネルディスカッションでは
市民協働による公共の拠点づくり
と題して以上の講師の方々で行われました。

コーディネーター

明治大学政治経済学部地域行政学科長・教授

牛山久仁彦氏

パネリスト

東京理科大学理工学部建築学科教授

伊藤 香織氏

NPO 法人子育てひろば全国連絡協議会理事長

奥山千鶴子氏

長岡市国際交流センター「地球広場」センター長

羽賀 智信氏

埼玉県和光市長

松本 武洋氏

高知県須崎市長

楠瀬 耕作氏

中で、伊藤香織氏が、シビックプライドという観点から、イギリスなど諸外国の例をだしながら協働の意義を強調されていたことと、奥山千鶴子氏による地域子育て支援拠点整備事業の実践報告がありました。

厳しい人口減少の中、市民との協働がさらに必要とされる。公共の拠点づくり、ハードとの担い手づくり、ソフトも重要なテーマである。

公共のプラットフォームという観点から意見集約がなされた。

これからの志木市においても、市民協働のまちづくりには拠点となりうるものの説明周知をしっかりと、まちづくりの推進に職員皆さんで取りくんでもらいたい。

以上報告いたします。

政務活動費行政視察報告書

視察期日 平成30年11月14日～平成30年11月15日

視察地及び項目

第13回全国市議会議長会研究フォーラム

視察参加者 志木市議会議員 鈴木 潔

視察内容 別紙のとおり

平成30年11月30日

志木市議会議長 河野 芳徳 様

報告者 志木市議会議員 鈴木 潔



別 紙

第13回市議会議長会研究フォーラム

開会式

主催者あいさつ 全国市議会議長会会長 山田一仁 札幌議長

ご挨拶のあと

基調講演

「地域共生社会」をどうつくるか

中央大学法学部教授 宮本太郎氏の基調講演がありました。

テーマは、「地域共生社会」どうつくるかで、2040年を超える自治体のかたち

自治体が直面する2040年問題・重量挙げ化と漏斗化が限界点になり若年層の流失、地方と東京圏がそれぞれ違うかたちで持続可能性が問われるようになる。

地方圏は、高齢化ピークはすぎるが現役世代がさらなる減少、東京圏は、現役世代の流入もあり人口規模は維持するが出生率が低く、更なる高齢化が。そこでピンチをチャンスすること。

元気人口を増やし、定年後の男性の地域デビューで生涯活躍の出番があるまちへかえること。そして新しい家族縁・新しい地縁でコンパクトな拠点をつくることが大切であることの公演がありました。

パネルディスカッション

「議会と住民との関係」

コーディネーター

山梨学院大学大学院研究科長・法学部教授 江藤俊昭氏

パネリスト

公益社団法人地方自治総合研究所主任研究員 今井 照氏

(有)ひまわり亭代表取締役

食・農・人総合研究所リュウキンカの郷主宰 木田 節氏

朝日新聞大阪本社地域報道部記者 神田誠司氏

宇都宮市議会議長 小林紀夫氏

テーマは、議会と住民の関係についてコーディネーター江藤氏は、このテーマの進め方について説明をし、始めに(有)ひまわり亭代表取締役本田節氏の報告、熊本県人吉市議会議員を2期務め県議会議員に立候補したが落選、事業を始めたとあるが「議会と住民の関係について」とはあまり関係が聞き取れなかった。

二番目に、朝日新聞大阪本社報道部記者の神田誠司氏は各地での取材報告で地元に住んでの報告ではなかった。

三番目に、宇都宮市議会議長の小林紀夫氏の報告は市議会の取組、議会報告や主権者教育等の事例報告をされた。議会改革は主権者の意識をいかに向上させるかが問われている。

四番目に、今井 照氏から議会の総量を上げるための特別の性質について報告がありました。市において議会と住民の関係は、多くの研究は都道府県議会の研究、市議会は400万人の市から1万人足らずの市があり内容が大きく開きがあり的確な議論が出来ない。

市町村が合併し大規模。広域化し自治の本当の姿を失い組織に偏り出来てしまっている現状を心配するとの事でした。

二日目のパネルディスカッション

「議会と住民の関係について」

コーディネーター

山梨学院大学大学院研究科長・法学部教授 江藤 俊昭氏

事例報告者

久慈市議会副議長 桑田 鉄男氏

新潟市議会議員

新潟市議会主権者教育推進プロジェクトチームリーダー

伊藤健太郎氏

犬山市議会議長

ピアンキ アンソニー氏

竹原市議会議長

道法知枝氏

二日目の課題討議は、昨日に続きテーマは「議会と住民について」でコーディネーターも江藤俊昭氏で始まりました。

始めに、久慈市議会副議長桑田鉄男氏から久慈市議会の取組等が報告されました。

議会改革の取組で「じえじえ基本条例」、住民と議会が協働する場「がだって会議」、袖ヶ浦市議会との議会間有効交流協定、議会のICT化(タブレット端末)、災害時議会マニュアルの策定・発動、議長ほか常任委員長の所信表明、通年会期制の導入、議会のありかた検討会議の常設(定数・報酬)リニューアル議会広報紙「がだってタイムス」委員会代表質問(委員連携型)などが報告されました。

つぎに、新潟市議会の伊藤氏から報告がありました。

伊藤氏は市職員から平成27年の市議選に初当選され、その後新人議員13名で「議員として学校等と協働で主権者教育を進められないか」発案され、当時の議長のバックアップもあり、市議会に対応することに決定され、このプロジェクトが始まった。

全議員対象の部勉強会を開催、主権者教育の意識向上を図ってい

き、プロジェクトが設置された。その中で中学校で模擬市議会を開催し、ロールプレイングを実践し、市内4校328名の生徒に実施し、延べ29名の議員が参加した。マスコミでも取り上げ、大きな成果があったとの事でした。

以下、犬山市議会議長ビアンキ アンソニー氏からの報告がありました。市民参加と議会機能向上で、議員間討議を取り入れ、議員間同市での議論を活発化した。それによって、政策立案・政策提言の力が向上した。それから1日女性議員を募集し、女性議会を開催しその中で意見集約されたものを行政に申し入れた。

最後に竹原市議会議長の道法知枝氏の報告は、議会と住民と言うよりも、ご自身の生い立ち、嫁ぎ先の内情等の発表でした。

以上報告します。